

夏季合宿・八丈島

資料作成 原田・田崎

〈概要〉

去年の夏合宿は浅間山であった。もっと過去にさかのぼると、植保はどんなところへ合宿へ行っていたのだろうか？そういった興味で過去の部報をめくっていると、この島の名前を見つけた。豊かな自然、南国の気候、海、山、森。植保の活動が求める条件がそろっていると感じた。ということで、今年の植保の合宿では、その場所へ行くことになった。その場所こそが、八丈島。

八丈島は、房総半島の野島崎から真南へ 280km ほどの所にある、面積 60 キロ平方程度の小さな島である。この島は三原山と八丈富士という二つの火山によって、ひょうたん型に形成された島である。その島の植物、昆虫、動物、さらには海の中なの生物にまで手を伸ばし、生物相を調べつくそうとしたのが、2011 年の植物保護研究部・夏合宿である。

〈合宿期間〉

2011 年 8 月 3 日から 8 月 6 日

〈遠征者〉

植物保護研究部員

〈合宿計画〉

日時	予定	補足
8 月 3 日	合宿初日	
21:30	東京・竹芝客船ターミナルに集合	竹芝栈橋のこと
22:00	竹芝客船ターミナル出港	遅れたらアウト
～	船泊	自由行動(和室です)
8 月 4 日	八丈島初日	
9:20	八丈島に到着	底土港
9:40	民宿「船見荘」に到着	宿の人に挨拶しよう！
10:00	活動前の会議(予定の確認・修正)	
10:30	各班・グループに分かれて活動	好きなことをしよう
13:00～	各自昼食	宿では昼食が出ません
17:00	全員宿に戻る	夕食まで自由行動。シャワーでも浴びてくれ

18:00	夕食	夕食・朝食の時間はある程度変更可能
19:00	活動報告会	面白いことがあったら教えてちょ
19:30	夜の自由行動！班ごとに活動	夜の八丈島を満喫する
23:00	帰っておいで～。調査結果のデータ化	寝るもよし。徹夜もよし。
～	完全自由時間	八丈富士の日の出でも見ようか
8月5日	八丈島二日目	
6:00	起床(早い？時は金なり)	早朝ランニングでもやるか！
6:30	活動前の会議(予定の確認・修正)	
7:00	朝食	しっかり目を覚ましておくように
8:00	各班・グループに分かれて活動	2日目はみんなで海に行くのもいいね
12:00～	各自昼食	↑の場合は釣った魚でも焼いて食うか(笑)
17:00	全員宿に戻る	(買い出しに行く)
18:00	夕食(バーベキュー)	宴会～♪
20:00	活動報告会	
20:30～	夜の自由行動！班ごとに活動	八丈島を楽しもう！
23:00	帰っておいで～。調査結果のデータ化	各班の代表者が責任を持ってデータ管理
～	完全自由時間	悔いが残らぬように！
8月6日	合宿最終日	
6:00	起床	気持ちよく八丈島を去れるように早起き
6:30	会議！予定の確認	出航時間の確認
7:00	最後の朝食	
8:00	帰る準備をしましょう	散歩に出るのもアリ
9:00	宿の人にお別れをしましょう。	合宿は楽しかったかな？
9:30	底土港着	八丈島にお別れ(お土産買うか)
10:00	出航	さようなら～
～	船内で自由時間	寝るのもよし(和室です)
20:50	東京・竹芝客船センターの到着	船内で、最後のお疲れ様でした会議。
21:00	解散！帰宅しよう！	家に帰るまでが合宿だよ！

〈調査計画〉

① 総合調査班（担当：原田）

レンタカーを借りて、八丈島をの植物、昆虫、動物の総合的な調査を行います。植物調査、昆虫採集（スウィーピング、ビーティングが主）、海浜生物採集を行う。一日目は八丈富士側、二日目は三原山側に行く。

② 植物班（担当：高橋）

徒歩で植物調査を行います。生田と同じ高度での植物比較や植生の違いを調べる予定。一日目は島外周や平地をめぐり、二日目は三原山に突入する。

③ 昆虫班（担当：田崎）

徒歩で昆虫採取を行います。八丈富士に登り、その近辺に特異的な昆虫の採集を目指します。ポイントや集合場所集合時間などを決め、あとは各自採集行動を行います。

④ 海班（担当：佐藤）

水中カメラを駆使し、水中の生態を観察・記録します。

〈採集・確認生物目録〉

植物班以外、全ての班の調査結果を総合し、採集・確認した生物の目録として表示する。植物班の調査結果は、この部報の植物班の部分で八丈島の植物調査として報告しているので、そちらを参照してください。

昆虫

カメムシ目

ヘリカメムシ科 ホオヅキカメムシ、ホソハリカメムシ、ハラビロヘリカメムシ

カスミカメ科 ベニナガムギカスミカメ

他 オオホシカメムシ、クサアオカメムシ、クロカメムシ、セスジナガカメムシ、チャバネアオカメムシなど

アオバハゴロモ科 アオバハゴロモ

ヨコバイ科 ヒメヨコバイの一種、マエジロオオヨコバイ

セミ科 ツクツクボウシ

ツノゼミ科 トビイロツノゼミ？

グンバイウンカ科 ヒラタグンバイウンカ

ミミズク科 ミミズク

甲虫目

- ハムシ科　　ハッカハムシ、ウリハムシ、クロウリハムシ、ヤマイモハムシ、
ノミハムシの仲間、ツツハムシの仲間
コガネムシ科　　リュウキュウツヤハナムグリ
ゾウムシ科　　約5種
タマムシ科　　アヤムネスジタマムシ
オサムシ科　　エゾカタビロオサム、スジアオゴミムシ、ハラアカモリヒラタゴミムシ、
ヨツボシゴミムシ
コメツキムシ科　　コガネホソコメツキ、サビキコリ
テントウムシ科　　シロホシテントウ、ヒメアカボシテントウ
カッコウムシ科　　ナガカッコウムシの仲間
ハナノミ科　　ハナノミの仲間
ホタル科　　ホタルの仲間
カミキリムシ科　　ミヤマホソハナカミキリ、ムネスジウスバカミキリ

ナナフシ目

- ナナフシ科　　トゲナナフシ

ゴキブリ目

- ゴキブリ科　　サツマゴキブリ

チョウ目

- ヤガ科　　オオトモエ
ヤママユガ科　　オナガミズアオ
シロチョウ科　　モンシロチョウ

他

爬虫類

有鱗目

- ヤモリ科　　ミナミヤモリ
メクラヘビ科　　ブラーミニメクラヘビ

その他

- イソガニ、フナムシ、オオゲジ、サソリモドキなど

〈おわりに〉

植保の昔の話を聞くと、まるで今の状態からは信じられないような、伝説的な話がたくさんある。一つには、植保はその昔、日本中の草木の同定力を備えており、どんな草木でも、植保に聞けば判明した、という話であったりする。昔の実態はどうだったのだろうか、疑問に思って目を通したのは、過去歴々と発行されていた植物保護研究部の部報であった。その内容を見ると、確かに学術的な内容が多く、とても圧倒された。

こんな活動をしていた人たちが、いったいどのような場所へ遠征・合宿へ行ったのだろう。今回の合宿地が八丈島に決まったのは、そんな過去の植保の偉人たちの歩んだ道に、少しでも近づいてみたいという思いがあったからでもある。

八丈島は、植保の合宿では幾度も訪れたことのある場所で、植保のOBの方に聞いた話では、昔の夏合宿は、一週間どころでは終わらなかったそうだ。民宿は取らず、サークル所有のテントや飯ごうを持参して、米などの食材を買い込んで、キャンプ場で一ヵ月近く、毎晩寝袋で寝たという。今年の合宿は、そこまでやることはできなかった。皆の用事もあり、他のサークルに所属している部員もいた。だから、夏の全てを植保の活動にささげるまでには至らなかった。しかし、きっと、八丈島の地に降り立ったときの気持ちや、豊かな自然に魅了される心は、先代の方々のそれと変わらないものであったはずだ。そういった心意気を忘れず、今後も植保の合宿を有意義なものにしていきたいと感じる。